



2026年9月14日
三井住友DSアセットマネジメント
チーフマーケットストラテジスト 市川 雅浩

市川レポート

2026年9月FOMCプレビュー～今回の注目点を整理する

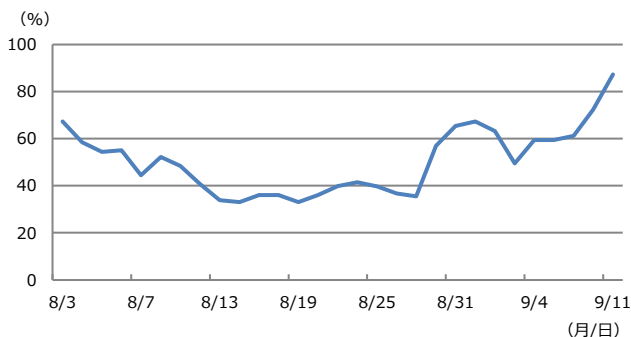
- 今回のFOMCでは利上げの判断が最大の焦点に、市場では25bpの利上げの織り込みが8割強。
- 弊社は今回25bpの利上げが行われ、12月に25bpの追加利上げ、来年は据え置きを予想する。
- 利上げとウォーシュ議長のタカ派姿勢と先行きの指針の非提示は想定内、市場の混乱はなかろう。

今回のFOMCでは利上げの判断が最大の焦点に、市場では25bpの利上げの織り込みが8割強

米連邦準備制度理事会（FRB）は、9月15日、16日に米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催します。今回は利上げの判断が最大の焦点になると思われますが、フェデラルファンド（FF）金利市場における25ベースポイント（bp、1bp＝0.01%）の利上げ確率は、9月11日時点で約87%に達しています（図表1）。以下、いくつかの注目点を整理し、想定される政策判断と市場の反応について考えます。

ウォーシュ議長は8月28日の講演で、基調的なインフレ率が目標の2%へ明確かつ十分な速度で向かっているとの確信がなければ、「やるべき仕事がある」と発言し、利上げに含みを持たせました。また、7月の個人消費支出（PCE）物価指数について、直近12カ月の変動率は3.7%、直近6カ月の変動率（年率換算）は4.1%と、目標の2%を上回っていると指摘、そのため市場では、8月の消費者物価指数（CPI）に注目が集まっていました。

【図表1：市場が織り込む9月の利上げ確率】



(注) データは2026年8月3日から9月11日。フェデラルファンド（FF）金利先物市場が織り込む9月15日、16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で25ベースポイント（bp、1bp＝0.01%）の利上げが行われる確率。

(出所) CMEのFedWatch ツールのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：ドットチャートが示唆する政策変更の道筋】

時期	前回6月のドットチャート		今回のドットチャート予想	
	年末中央値	年間の政策金利変更回数	年末中央値	年間の政策金利変更回数
2026年	3.750%	利上げ0.5回	4.125%	利上げ1回
2027年	3.625%	利下げ0.5回	4.125%	据え置き
2028年	3.375%	利下げ1回	3.625%	利下げ2回
Longer run	3.0625%		3.0625%	

(注) 前回6月のドットチャートは2026年6月17日時点。年間の政策金利変更回数は1回25ベースポイント（bp、1bp＝0.01%）の政策金利変更を想定した場合の回数。今回の2026年は、9月に25bpの利上げ実施を想定しているため、それを含めると利上げは2回となる。

(出所) FRBの資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成



弊社は今回25bpの利上げが行われ、12月に25bpの追加利上げ、来年は据え置きを予想する

9月11日に発表された8月CPIは、おおむね予想通りの結果となりましたが、食品とエネルギーを除くコア指数は前月比で0.3%上昇と、市場予想（0.2%上昇）を上回りました。前述の12カ月と6カ月の変動率は、総合指数が順に3.4%、5.1%、コア指数が順に2.4%、2.9%となりました。今回の8月CPIを受け、市場では利上げの織り込みが進み（図表1）、弊社も今回の利上げはほぼ確実と考えています。

なお、この先の金融政策について、弊社は年内12月に追加利上げ、2027年は政策据え置きを予想しています。また、今回は、FOMCメンバーが適切と考える「政策金利水準の分布図（ドットチャート）」が公表されますが、年内25bpの利上げ2回（9月利上げを含む）、2027年は政策据え置き、2028年は25bpの利下げ2回が適切との見方が示される可能性が高いとみています（図表2）。

利上げとウォーシュ議長のタカ派姿勢と先行きの指針の非提示は想定内、市場の混乱はなкаろう

ウォーシュ議長は記者会見において、8月28日の講演と同じく、現時点でFRBが最も優先すべきは物価であるとの見解を繰り返す一方、先行きの利上げパス（経路）に関する手掛かりを示すことはないと思われます。FF金利市場では、25bpの利上げについて、9月11日時点で年内2回をほぼ織り込み、来年もすでに2回をうかがう状況となっていますが、今後の物価指標次第で、特に来年の織り込みは大きく変化することが見込まれます。

今回、25bpの利上げと、ウォーシュ議長が物価重視の姿勢を示すも、先行きの政策指針は示さずという結果は、すでにある程度、想定済みと考えられます。そのため、直後の米金融市場では、小幅ながら、ドル高、長期金利上昇、株安の反応が予想されますが、一時的なものにとどまり、大きな混乱は回避され、市場の焦点は、ほどなく9月17日、18日開催の日銀金融政策決定会合に移る公算が大きいとみています。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会